

教育研究等活動業績

山梨英和大学

フリガナ 氏名	性別	生年(西暦) (公表可否)	職名	所属
ワタベ ユキ 渡部 雪子	女	非公表	助教	人間文化学部人間文化学科
取得学位称号	博士(心理学)	専門分野	発達臨床心理学、臨床心理学	
学 歴	2003年	4月	中央大学文学部 教育学科心理学コース	入学
	2007年	3月	中央大学文学部 教育学科心理学コース	卒業
	2007年	4月	筑波大学大学院 人間総合科学研究科 一貫制博士課程ヒューマン・ケア科学専攻	入学
	2009年	3月	筑波大学大学院 人間総合科学研究科 一貫制博士課程ヒューマン・ケア科学専攻	修了
	2009年	4月	筑波大学大学院 人間総合科学研究科 3年制博士課程ヒューマン・ケア科学専攻	学籍異動
	2012年	3月	筑波大学大学院 人間総合科学研究科 4年制博士課程ヒューマン・ケア科学専攻	修了
実 務 経 験	2007年	5月	茨城県つくば市スクールサポーター(2009年まで)	
	2010年	4月	茨城県古河市 発達相談 心理職 (2012年まで)	
	2010年	4月	茨城キリスト教大学人間福祉学科兼任講師 (2012年まで)	
	2011年	4月	学校法人筑波学園アール医療福祉専門学校 非常勤講師 (2013年まで)	
	2012年	4月	立正大学心理学部 臨床心理学科 特任講師 (2012年まで)	
	2013年	4月	中央大学文学部 心理学科 兼任講師 (2014年まで)	
	2013年	4月	千葉大学大学院教育学研究科 学校教育科学専攻 兼任講師 (2012年まで)	
	2014年	4月	東京成徳大学 応用心理学部臨床心理学科 助教 (2017年3月まで)	
	2017年	4月	長野県スクールカウンセラー (2020年まで)	
	2020年	4月	山梨県スクールカウンセラー (現在に至る)	
	2021年	4月	山梨英和大学 非常勤講師 (2021年まで)	
	2021年	12月	株式会社 BIPSEE 抑うつ治療心理部門研究開発アドバイザー (現在に至る)	
	2022年	4月	山梨英和大学 人間文化学部人間文化学科 助教 (現在に至る)	
	2022年	5月	高知大学 医学部講座 客員助教(現在に至る)	
受 賞 歴	2012年	3月	筑波大学大学院 人間総合科学研究科 ヒューマン・ケア科学専攻長賞	
所 属 学 会	2011年	1月	日本カウンセリング学会会員 (現在に至る)	
	2011年	5月	日本臨床心理士会会員(現在に至る)	
	2013年	8月	日本心理臨床学会会員(現在に至る)	
	2023年	3月	日本遊戯療法学会会員(現在に至る)	
特 免 資 許 格 等 ・ ・ ・	2011年	4月	臨床心理士 (登録番号 第23518号)(財)日本臨床心理士資格認定協会	
	2019年	2月	公認心理師 (登録番号 第5518号)(財)日本心理研修センター	
e-mail	wata.yuki@yamanashi-eiwa.ac.jp			

目 次

○教育業績

教育理念、方針、方法

教育能力

教育方法実践例

作成した教科書、教材等

教育方法や実践に関する発表、講演等

担当授業科目

代表的なシラバス

教育改善活動

教育能力に対する評価

○研究業績

研究の特徴

研究経歴

研究実績

著書

学術論文

その他の研究活動

競争的資金採択課題

学会等発表、役員参加

共同研究・受託研究の実績

大学院生指導

研究能力に対する評価

○サービス活動業績

学内委員会・作業部会等活動実績

アドバイザー活動実績

後進育成活動実績

社会貢献活動

○専門的活動(教育業績、研究業績、サービス活動業績)の統合による成果と目標

専門的成果

専門的目標

○添付資料

完全リスト(研究実績、競争的資金採択課題、学会等発表・役員参加、共同研究・受託研究の実績、
学内委員会・作業部会活動実績)

サンプル(教育能力、代表的なシラバス、教育改善活動、大学院生指導、アドバイザー活動実績、
後進育成活動実績、社会貢献活動)

評価結果(教育能力に対する評価、研究能力に対する評価)

専門的成果のエビデンス

教育業績

教育理念、方針、方法	<p>多様な文化的な価値観を理解し、心の支援を実践する人材の育成に尽力したいと考えております。臨床心理学の理論や知識を伝えることはもちろん重要であると考えますが、そうした知識や理論を学生さん自身の体験や経験を通してより深い学びにつなげていくアクティブラーニングが特に重要であると考えております。実践的な学びと学びのアウトカムを結びつける指導を心がけております。</p>
教育能力	<p>(1)教育方法実践例</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Google classroomを活用した授業 オンデマンド型: Googleハングアウトを用いた質問+オンデマンド資料+動画配信を行いました。授業時間内に動画配信を行い、学生の要望に合わせてYou tubeでの動画配信を行いました。授業時間中にチャットによる双方向的な質問を受け付け活発な議論が展開されました。双方性を十分に担保するためリアクションペーパーに対しては、全てのコメントに対してフィードバックをつけて返却しました。 ・Google classroomを活用したオンライン授業 双方性を十分に担保するためリアクションペーパーに関してはすべてのコメントに対してフィードバックを行いました。復習教材や予習教材をGoogle classroomに掲載し、自習を促しました。 <p>(2)作成した教科書、教材等</p> <p>講義用教材 講義科目においては、パワーポイントスライド・レジュメを教材として作成し、授業中の理解の促進および予習・復習の際の活用を促している。視覚的に見やすいレジュメやパワーポイントの作成を心がけている。演習科目においては、ワークシートおよび相互フィードバックシートを用いて学びの定着を促している。</p> <p>(3)教育方法や実践に関する発表、講演等</p> <p>他大学にて3年間教務委員とFD委員を務めた経験から、学科としての授業評価の分析や授業改善につながる取り組みを模索。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・FD研究集会にて臨床心理学実習におけるICTを活用したモデル授業として発表を行なった。 ・学科内の授業評価アンケートの結果について分析し、授業評価得点の高かった教員とともにFD研究集会にて授業改善に関する発表を学科を代表して行った。学習行動調査結果について学科内の傾向を分析し、FD研究集会にて報告を行なった。
担当授業科目	
代表的シラバス	
教育改善活動	<p>リアクションペーパーおよびGoogleチャット機能を活用し、学生からの質問などを積極的に行っている。リアクションペーパーに書かれたコメントに対してはフィードバックをつけて返却をしている。公開可否を確認したうえで、コメントを共有し、相互学習を促進している。次回の授業において、補足説明を行ったり、新たな角度からの考察を加えることで理解の定着と促進を促している。クラスメイトが書いたコメントを公開することで、新たな気づきが得られ学習意欲の向上につながっている。</p> <p>演習の授業においては、すべてのコメントペーパーに対して毎回フィードバックを行った。他の学生からのコメントについても参照できるよう氏名は伏せた状態で全員に公開している(非公開を希望した学生を除く)。</p>

教育能力に対する評価	<p>(1)学生による授業評価</p> <p>・2022年授業評価 ○「心理学演習1B」:「この授業は、全体として満足できる授業だった」に対して非常にそう思うと回答した学生は100%であった。 少人数のクラスで密度の濃い講義を受けることができました。現場経験のある先生が現場でしか得られない知識などを交えて、想定されている場合に合わせた的確にアドバイスをくださりとても有意義でした。学ぶことも多く、また先生に教わることができて本当によかったなと思いました。この授業は実践とそれに対する意見・感想を共有する時間がほとんどだった。ここまで毎時間真剣に考え、成長を実感できる授業は今までなかった。良かった点:毎授業の感想に対するフィードバックが充実、名前は伏せた状態で他の人のコメントに対するフィードバックも見れて勉強になった。また毎授業、授業を受けているよりかは自ら進んで発見を得る感覚だった。そしてよく他のメンバーと話せる環境になっていて、余すことなく濃密な時間であった。 ○「心理実習ⅡE」:「この授業は、全体として満足できる授業だった」に対して非常にそう思う回答した学生は100%であった。実際に実習を行うことができましたし、何より実習を迎え入れてくださった施設の皆さんをはじめ、担当して下さった渡部先生も手厚いフィードバックを行なってください。より多くのことを得られたと感じているからです。</p> <p>本学の同僚教員等による授業評価は、現時点においては実施されていない。</p>
------------	--

研究業績

研究の特徴	<p>親から期待されることを子どもがどのように感じ受け止めるのかについて研究を行っている。特に青年期において親から自立していく過程の中で親からの期待との葛藤は成長を促す場合もあるが、深刻な精神疾患などとの関連も指摘されている。また、親が子どもとの行動に対してどのような感情的反応をすると子どもが予期しているのかということについても研究を行っている。</p> <p>中学生の関係性攻撃や援助要請に関する研究を行っている。 抑うつ的反抗に対する反芻焦点化療法を中心とするイメージを活用した介入方法の効果に関する検討を行っている。</p>
研究経歴	<p>2008年 中学生が捉えた親の期待の受け止め方と適応および関連要因の検討</p> <p>2013年 期待への行動結果に対する親の反応についての予期と内的・外的適応の関連</p> <p>2014年 中学生人気児・拒否児における関係性攻撃と心理社会的適応</p> <p>2014年 「強み(Strengths)」を活用する介入が自己形成意識に与える効果</p> <p>2021年 抑うつ的反抗に対するイメージを活用した介入方法の効果に関する検討</p>
研究実績	<p>(1)著書</p> <p>教育心理学 (MINERVAはじめて学ぶ教職) 分担執筆 ミネルバ書房, 12章, pp.149-163. 2018年3月</p> <p>ネットワーク論からみる新しい学級経営 分担執筆 ナカニシヤ出版, 14章「現代の子ども像」, pp.105-110. 2015年3月</p> <p>(2)学術論文</p> <p>親の期待研究の動向と展望 (2008), 渡部雪子・新井邦二郎, 筑波大学心理学研究, 36, 75-83. (査読なし)</p> <p>中学生における親の期待の受け止め方と適応との関連(2012), 渡部雪子・新井邦二郎・濱口佳和, 教育心理学研究, 60, 15-27. (査読あり)</p> <p>期待への行動結果に対する親の反応についての予期尺度作成の試み(2013), 渡部雪子, 立正大学研究所紀要, 11, 67-73. (査読なし)</p> <p>大学生の援助要請の方法と適応の関連(2014) 渡部雪子・永井智・桑原千明, 立正大学心理学年報, 4, 45-52. (査読なし)</p>

研究実績	教師評定用多次元性関係性攻撃尺度(中学生版)の作成(2014) 渡部雪子・濱口佳和, 筑波大学発達臨床心理学研究, 25, 21-32.(査読なし)	
	「強み(Strengths)」を活用する介入が大学1年生の自己形成意識に与える効果(2014)森本哲介・高橋誠・渡部雪子, 学校メンタルヘルス研究, 17, 39-49.(査読あり)	
	中学生人気児・拒否児における関係性攻撃と心理社会的適応との関連—教師評定測度を用いた検討—(2015)濱口佳和, 渡部雪子, 臼倉瞳, 筑波大学発達臨床心理学研究, 26, 1-12.(査読なし)	
	中学生における親の期待の認知と外的適応の関連(2015)渡部雪子, 濱口佳和, 新井邦二郎, カウンセリング研究, 47, 127-136.(査読あり)	
(3)その他の研究活動(国際会議発表、学術誌編集、学術論文査読等)		
季刊 公認心理師 秋号 キャリアパスインタビュー(2022)渡部雪子, p26-29.(査読なし)		
虐待を受けた子どもへの支援(2023)渡部雪子 指導と評価 69号p21-23.(査読なし)		
競争的資金採択課題	特になし	
学会等発表・役員参加	2008年3月	Yukiko Watabe, Shinobu Ikoma, Chiaki Kuwabara, Nice to meet you, but when did I meet you? Source monitoring for serial positions on false recall. The 7th International Conference on Memory.
	2008年10月	渡部雪子・新井邦二郎 大学生が捉えた親の期待に関する検討—学校段階比較を中心として— 日本教育心理学会第50回総会発表論文集, 50, p522.
	2008年10月	渡部雪子, 新井邦二郎 中高生が捉えた親の期待に関する検討1—親の期待の受け止め方尺度作成の試みを中心として— 日本教育心理学会大会第51回総会発表論文集, 51, p391.
	2009年8月	渡部雪子, 新井邦二郎 中学生の親の期待の受け止め方に影響を与える要因の検討 日本心理学会第73回大会発表論文集, 73, p363.
	2010年9月	渡部雪子, 新井邦二郎, 濱口佳和, 中学生の親の期待の受け止め方に影響を与える要因の検討, 日本心理学会第74回大会発表論文集, 74, p426.
	2011年3月	渡部雪子, 新井邦二郎, 濱口佳和, 高校生の親の期待の受け止め方に影響を与える要因の検討, 日本発達心理学会第22回大会学会発表論文集
	2011年9月	渡部雪子, 濱口佳和, 中高生が捉えた親の期待の受け止め方—自己決定感と過剰適応の観点から—, 日本心理学会第75回大会発表論文集, 75, p363.
	2011年9月	渡部雪子, 関口 雄一, 三鈷 泰代, 石隈 利紀, 濱口 佳和, 関係性攻撃と心理社会的適応との関連(14)—教師評定による中高生用関係性攻撃尺度作成の試み—, 日本カウンセリング学会第44回大会発表論文集, 44, p134.
	2012年9月	梅津 直子, 渡部 玲二郎, 松尾 直博, 尾花 真梨子, 渡部 雪子, 濱口 佳和, 関係性攻撃と心理社会的適応との関連(16): 教師評定による中学生の関係性攻撃と心理社会的適応との関連, 日本教育心理学会総会発表論文集 54, 274.
	2012年9月	渡部雪子, 濱口佳和, 中学生が捉えた親の期待と適応に関する心理学的研究, 日本心理学会第76回大会発表論文集. 76, p23.
2013年8月	渡部雪子, 永井智, 桑原千明, 大学生における友人関係およびソーシャルスキルが援助要請の方法に与える, カウンセリング学会第46回大会, p182.	

学会等発表・役員参加	2013年8月	渡部雪子, 永井智, 桑原千明, 大学生における援助要請スタイルとコミュニケーションスキルの関連の検討, 日本心理学会第77回大会発表論文集, 77, p355.
	2014年9月	田村節子, 渡部雪子他, 学生の困り感に対する援助モデルの作成および援助活動報告, 日本学校心理学会第16回大会発表論文集, 55.
	2015年8月	渡部雪子, 田村節子他 学生の困り感とGPA値に基づく援助モデル作成の試み, 日本カウンセリング学会第48回大会, p121.
	2020年3月	田間博晶, 太田裕哉, 渡部雪子他, 仮想身体の見た目の可動範囲が身体化感覚に与える影響に関する基礎的研究, 第29回ライフサポート学会フロンティア講演会 p107.
	2020年7月	Takehiko Yamaguchi, Hiroaki Tama, Yuya Ota, Yukiko Watabe et al., Influence of Visual Gap of Avatar Joint Angle on Sense of Embodiment in VR Space Adjusted via C/D Ratio 22nd International Conference on Human-Computer Interaction, (in press)
受託共同研究の実績	2021年 12月	抑うつ的反芻に対する反芻焦点化療法を中心とするイメージを活用した介入方法の効果に関する検討(株式会社 BiPSEE)
大学院生指導	学外実習に関する指導の実施、グループスーパービジョン	
研究能力に対する評価	本学の同僚教員等による授業評価は、現時点においては実施されていない。	

サービス活動業績

学内委員会・作業部会等活動実績	年	月	特になし
	年	月	
	年	月	
	年	月	
	年	月	
	年	月	
	年	月	
アドバイザー活動実績	特になし		
後進育成活動実績	特になし		

社会貢献活動	(1)講演会 2013年 11月 学校心理士会 千葉県支部研修会 講師 2018年 9月 岡谷南高校 教員研修会 講師 竜王小学校 教育相談に関する研修会 講師
	(2)出前講座 特になし
	(3)公開講座 特になし
	(4)学外審議会・委員会等 山梨県臨床心理士会 学校臨床心理士委員会 役員
	(5)その他 2015年 7月 八千代市放課後子ども教室におけるキャリア教育プログラム

成果と目標

専門的成果	<ul style="list-style-type: none"> ①抑うつ的反芻に対する介入研究のデータ収集を実施 ②子どもの虐待と学校の中での支援に関する記事を執筆 ③抑うつ的反芻に対する介入研究の成果に関する論文執筆
専門的目標	<ul style="list-style-type: none"> ①抑うつ的反芻に対するイメージを活用した介入方法の効果についての学会発表、論文の投稿。臨床群に対する治療的介入を実施予定。 ②学校の中での子どもや親への心理的支援に積極的に取り組み、臨床的実践の中で活かす ③スクールカウンセラーとしての資質の向上に努める。

作成基準日	2023年3月31日
-------	------------